



2025

1

第416号

真宗大谷派京都教区教化広報誌

教区だより

特集

三浦講、法中報恩講

レポート

別院音楽法要

今、この時に、親鸞聖人に会う

もりた えり
金沢教区 森田 恵利 氏

三浦講をお迎えして

去る10月12日、13日と講師に乾文雄師

(近江第5組正念寺住職、大谷中学・高等学校長)と祖父江佳乃師(名古屋教区有隣寺住職・節談説教師)をお迎えし、歴史ある「三浦講」の会所を勤めさせていただきました。三浦講とは、

450年続く法要で高島市今津町とマキノ町の真宗寺院11カ寺が順番に会所を持ち回りし、本願寺10代の証如上人の御影を引き継いで勤めています。戦国時代、石山合戦で織田信長から本願寺とお念仏の教えを命がけて護った三浦衆(今津・海津・大浦の門徒衆)の先達の労苦を偲ぶとともに間法の機縁の場として受け継がれている伝統行事です。

11年に一度の大打事、小さなお寺なので門徒総出でお迎えしなければ勤めることが出来ない行事ですが、門徒の高齢化や不安定な経済状況、コロナウイルス感染症で行事が縮小されていた影響

近江第二十六組 浄立寺

保木 円



もあり、どこまでやれるのか門徒一同とても心配でした。世代交代も少なく、前回よりもみんな11歳年を取って80歳前後になつています。役員会で集まって話しをするたびに「11年前と同じことは出来ない、今の状態で出来ることをしよう」が合言葉になっていました。

坊守として準備や経費の事ばかりが気になり、とても不安で落ち着かない毎日でした。住職は兼職していて単身赴任なので仕事中に思いついたことを私に連絡してきますし、一緒に住んでいる義父と義母も意見や思いを私に伝えてきますし、もちろん門徒さんの意見も確認しなくてははいけません。頭が混乱し、三浦講がなければ楽だろうなとそんなことばかり思つて、恥ずかしいですがこれが本音です。そして能登豪雨の知らせも重なり、今、三浦講の仏事をする意味は何なのか?あらためて考えました。能登地

震で被災された先輩、竹原了珠氏のお話をまとめた『立ち上がる念仏』を読ませてもらうことがありました。そこには「門徒さんがボランティアの方々からお願いして倒壊した家からご本尊を助け出してほしいと頼む声が多くあります。ある人はチェーンソーで切り開いて助け出されたご本尊を見て、ありがとうと泣いて家族でお勤めをする、またある方は探し出したご本尊を見て仏さまからいただいた命だと。私にもう少し生きてお念仏の教えを次の人たちに伝えてほしいと言われてるように思った」と言われたそうです」と書かれてありました。とても胸が熱くなり、先に歩まれた無数のご先祖の歴史を感じ、愚痴ばかりの私に「南無阿弥陀仏の教えを大事にしてください」と呼びかけられ、励まされているように思つたのです。三浦講を無事に迎え、2日間で150名ほどの参拝をいただきました。ご門徒をはじめ、たくさんの方々にご協力いただいたこと、とても感謝しております。何よりも本堂に集まったお仲間と共にお念仏を称え、ご講師のお二人の優しく、力強いお話しから自分の生き方を確かめ合うことが出来たこと、とてもうれしく思いました。



特集

ほつちゅうほうおんこう 法中報恩講

若狭第二組の法中報恩講

若狭第二組 浄蓮寺 山名 彰心



若狭第二組は、福井県の西部、若狭湾に面した美浜町と若狭町内の寺院で構成しています。美浜・若狭両町は、曹洞宗が世帯の八割以上を占め、真宗門徒の割合は二割に満たず、うち大谷派に属する世帯は5%程度に過ぎません。各寺院の門徒戸数も十戸から五十戸ほどで、ほとんどの住職が兼職し住職不在の寺院も四割に達しています。

若狭第二組の教化活動の中心は、毎年十月に開催する「法中報恩講」と十二月の「同朋大会」、そして三年に一度の「進員養成講座（同朋の会推進講座）」です。今回はこのうち、今年十月に開催された「法中報恩講」についてご紹介します。「法中報恩講」の歴史は古く、記録簿は現在組長の手元に五冊残っており、最も古い記録簿には「文久二年」（一八六二年）とあり、その当時より組内寺院を毎年巡回し開催していたことが分かります。

記録簿には、当番会所となった住職が、参勤した住職や法要次第、役割分担、布教使などを記しています。中でも目に止まるのは、本山冥加金の記載です。半世紀前までは毎年、冥加金の金額が明記されていたことから、当日各住職が持ち寄ったか、会場で集金したのかはわかりませんが、現在の組会の役割も兼ねていたようです。

美浜・若狭両町の本願寺派寺院でも大谷派同様、「冥加講」と呼ばれる法座が毎年十月に開催されており、そのいわれは遙か遠く、石山合戦の折に冥加金を集金し届けることを目的として、地域の真宗門徒が一堂に会し法要を営み、資金を調達したと伝えられています。そのことを裏付ける文書が本願寺派寺院に残っていると聞いたことがあります。戦中戦後の数年間、法中報恩講は開催されませんでした。昭和二十二年よ

り復活。爾来今日まで、コロナ禍の一年間の休会を除いて組内十ヶ寺を毎年巡回して継続してきました。ただコロナ禍以降、会所の負担軽減も兼ねて、従来の二昼夜三座から、一日のみ二座の開催とするなど、過疎化高齢化が急激に進行する中で、巡回して継続することを第一に話し合いを重ねて何とか今日に至っています。

組内寺院を巡回して開催する意義は、法中報恩講の会所という住職だけで遂行できない一大事を引き受けることで、①寺院の修繕や備品購入の機縁となったり、②寺に足を運ぶ機会が少ないご門徒を巻き込んだり、何よりも③住職と門徒が何度も話し合いを行い多くの時間を用いて準備をするプロセスそのものが重要だと思えます。

今年度の当番会所は、若狭町新道区にある真覺寺でした。前任職が還浄されてからは無住となりましたが、代務をされている武田 究良念寺住職とご門徒の皆さんが一体となり、一年以上前から準備を進めていただきました。そのおかげで、晴天のもと満堂の法要となり、同朋唱和の勤行と鈴木君代さんのご法話を、僧俗一緒に聴聞させていただきました。



報恩講 日中 音楽法要

出版部会 竹中亜希子



秋晴れの十月下旬、百人近い参詣者が見守る中、ピアノとキーボードによる出仕曲が奏でられ、厳かに法中が内陣へと出仕。輪番の着座に併せて、着座曲の合唱が声高らかに始まった。

平成三年、みんなで歌おう仏教讃歌”を合言葉に「真宗大谷派長浜教区合唱団 花あかり」が誕生した。結成にあたり、発起人が当時の教務所長に何度も直談判をした。以来、長浜・五村両別院の報恩講の日中で、音楽法要が勤められるようになった。

現在は、合唱団「花あかり」と合唱団「かがやき」の約五十名の混声メンバーが集う。演奏される音楽法要曲は、二〇一一年宗祖七百五十回御遠忌を機に編成された法要次第にそって制作されたもの。伽陀・三帰依文・回向が現代語訳され、新実徳英氏によって「どなたでも歌いやすいように」と作曲された。法要中の供灯供花は、坊守会と

女性会の役員が担っている。

団員に、音楽法要に対する想いを尋ねた。「歌を通して教えをいただきたい」「毎年、この縁が最後かとも思っている」「歌を通して出させてもらっている」「歌っていると一つ一つの言葉が心に沁みてくる」等、さまざまな答えが返ってきた。音楽法要に出仕の准堂衆は、『和訳正信偈』の歌詞は子供たちにも伝わりやすいと思う」と話された。初めて別院にお参りされたという方は、「歌詞を見ながら、心地よくじんときた」との感想を寄せた。

私も合唱団の一員だが、長浜別院では一参詣者としてお参りした。視点が変わったことで、音楽法要は常に緊張感を保ちつつ進行していく勤行であり、ライブであると再認識した。教区改編により新生「合唱団 花あかり」の新しい肩衣をつけ、様々な想いが交錯する音楽法要となった。

♪大津別院音楽法要にお参りして

大津別院で初めての讃仰音楽法要が勤まると知り、参詣することに。琵琶湖を望む大通りから、境内に一步入ると、静けさの中に合唱のハーモニーが聞こえてきた。十数名の団ながら、学生さんも混じっており、ここにも仏教讃歌の息吹が芽生えていることを嬉しくそして有難くお参りさせていただいた。



【写真上段】

長浜別院音楽法要

【写真下段】

五村別院音楽法要

ひとひと
男と女の平等って、なに？

出版部会 藤野 勝

そもそもコラムタイトルの「平等ってなに？」って何？一般的な国語辞典では「平等」とは「差別がなく、みな同じであること」と記述されています。私がいづつも参考になっている中村元著『仏教語大辞典』（東京書籍）では、

- ① 共通であること。
 - ② 共通で用いること。
 - ③ 同等の人。
 - ④ 尊卑の間の平等。
 - ⑤ 憎愛好悪を超えて超然として
 - ⑥ 一様に。誰に対しても同じように。
 - ⑦ あまねく。
 - ⑧ 無差別の世界。諸現象をつらぬく絶対の真理。真理そのもの。
- と、記述されています。

「平等感」を主張しあう状況では、その感覚の違いによって互いが感じ取るズレに悩まされるのが私の現実です。折衷案を「平等」と表現するのは少し外れているような気がします。そういう「平等」の裏には「これだけ頑張っているのに」とか「良かれと思った行動が指摘され

大津別院音楽法要

出版部会

比叡谷真



大津別院では、昨年合唱団が結成されました。それまで近江第一組響忍寺様で活動されてきた皆さんが、別院を拠点に活動してくださることになり、まず、五月の蓮如上人御影道中お立寄り、二月の大津市仏教会成道会大会で合唱いただきました。

そして、今年度から一〇月一四日・一五日の別院報恩講でも合唱の時間をもうけることになり、一四日一四時開始の速夜前、一三時から讃仰音楽法要として執行しました。宗祖七百五十回御遠忌に際して作曲された音楽法要ですが、もともと速夜は勤行後、御伝鈔拝読・法話がありますので、今回は時間を短縮するため、登高座は省略して外陣勤めとし、『和訳正信偈』についても依経段のみとするなどアレンジしての法要でした。

初めての音楽法要、どれだけお参りがあるか不安でしたが、思った以上にご参聴がありました。今回は祝日であったた



め、高校生・中学生のご門徒さんが姉妹で合唱にスポット参加してください、ご家族もお参りいただいたこともうれしい出来事でした。また、合唱団員含め多くの方に、お速夜にも引き続きお参りいただいたことが、何よりありがたいことでした。

今回は、報恩講のお待ち受けとして直前に音楽法要を執行しましたが、合唱いただいた方・お参りいただいた方にとっては長丁場になりすぎたとも感じます。今後は、より多くの方に関わっていただけたら、報恩講の音楽法要を、模索しつづけたと考えております。

♪長浜別院音楽法要にお参りして

一〇月二四日、長浜別院報恩講中日中の音楽法要にお参りしました。大津別院音楽法要にお参りしてくださった合唱団「花あかり」の方から事前にかがっていました。御堂の向拝に上がると歌詞のプリントをいただき、とてもありがたく思いました。法要の際は、多くの参詣者が唱和されていて、通常の勤行もですが、このような工夫があるとよいと感じました。

堂内に響きわたる「花あかり」の皆さんの歌声は素晴らしく、また、内陣・外陣に多くの出仕者がおられたことにも感動しました。歌声はもちろんです、僧侶分として、身をもって莊嚴することを大事にしたいと、あらためて感じたことです。



る」といった打算的な思いが自分自身に見え隠れする様に思います。

「〇〇だから」という感覚に縛られてしまうと、少なくとも前記の⑤⑥の用法にはたどり着けないと思います。私自身、十分に協力できていないことを棚に上げて、周りに問題解決を期待したり、固定概念で目の前の問題を先送りしてみたり、当事者としての意識が希薄にして直視を避けていると痛感しています。

「イクメン」「家事男子」「ワンオペ育児（介護）」等の言葉が表現される現状において「不均衡」の「役割分担」を互いに協力しあっている「多様性の」意識改革が私自身の課題であります。



今、この時に、 親鸞聖人に会う



願いの中に生きる

金沢教区 本覺寺ほんかくじ

解放運動推進本部 女性室スタッフ

森田 恵利もりた えり



私は、金沢教区にあります本覺寺という寺の准坊守、衆徒として在籍しています。このお寺の一人っ子として生まれました。幼い頃から、当寺の行事や、教区の日曜学校や子ども会の活動、また本山で行われる大谷派児童教化連盟主催の同朋ジュニア大会、そして高校生

奉仕団などに参加してきました。その出会いの中で、お育て頂き、今ここにいらることができています。

子ども時代は学校での友達同士の関係性でつらい気持ちを抱えながら過ごしていた時期がありました。漠然とその場から逃げ出したいなと思うこともありました。勿論、身近な人や家族にも、相談したこともあったと思いますが、心配をかけたくない思いもあり、あまり細かいことは話さなかつたように思います。

そのような日常に寄り添ってくれたのは、児童教化のスタッフをしていた大人達でした。日常の学校生活から離れたところで出会うその大人達は、学校の先生とはちよつと違い、いつも「あなたは大切なひとりですよ」と伝えてくれました。特に何か相談した訳でも無いと思うのですが、「また会えてうれしだよ」と言つて喜び合えるその場と人が当時の私には大切なものでした。

また、その出会いの最初、初めて参加した金沢教区の児童奉仕団のご法話で当時の先生が阿弥陀経の中から

池中蓮華。大如車輪。青色青光。
黄色黄光。赤色赤光。白色白光。
微妙香潔。

〔仏説阿弥陀経〕 真宗聖典第二版136頁

の部分を紹介して下さいました。

そしてその意味を「仏様の世界には、大きな蓮の花が咲いていて、青い花は青く光り、黄色の花は黄色く光り、赤い花は赤く光り、白い花は白い光があつて、それぞれに良い香りを放っている。それぞれがそれぞれの輝き方で咲いているのです」とお話し下さいました。そのお話を聞いたときに、自分の頭の中で広がった、綺麗な光景を今でも思い出すことができません。当時の私は、「仏様の世界ってすごいな」と感じました。その子どもの頃感じた浄土の世界が今でも私の中の原点になつて残っています。

今、世の中では「多様性」が大切なことだとされています。一般的な言葉の意味では「個人や集団の間に存在しているさまざまな違い」「人種や性別、年齢、宗教、価値観、障がいの有無などにおいて、異なる属性を持った人々が組織や



団体の中で共存している状態」とされているようです。出来れば、このように誰とでも接したいですし、本当に実現できれば誰も苦しい思いをすること無く過ごせるように思います。しかし、人間である以上、自分の価値基準が入つてしまひ、今度はその言葉を盾にして正義のように握りしめる、というようなこともおこってくるのではないのでしょうか。

一見、美しく見える世界でも、人間の基準や価値観が入つてしまふとすぐに曲がつた物になつてしまひます。そのような中に生きながら、本当の願いに触れさせてもらえるのが浄土真宗の教えを聞いていくことのように思います。子どもの頃から出遇わせてもらつてきた仏様からかけられている様々な願いを大切にしながら、自分の受け取りを振り返り、「本当にこれでよいのか」と確認しながら、生きていきたいと感じています。

京都教区 1月の教区事業

8日(水)	9:30~15:30	坊守会 基礎講座 (Zoom 併用)	教区会館 2階 大講堂
12日(日)	10:00~12:00	子ども報恩講	五村別院
15日(水)~16日(木)		第17期 第1回 伝道研修会	教区会館
23日(木)	13:30~17:00	教区同朋会議	教区会館 2階 大講堂
28日(火)	13:30~16:30	部落差別問題に学ぶ同朋協議会 研修会	教区会館 2階 大講堂
30日(木)	13:00~15:00	准堂衆会 女声声明講習会 (Zoom 併用)	教区会館 2階 大講堂

京都教区 1月の教区諸会議

9日(木)	13:30~16:30	教区門徒戸数調査委員会 総会	しんらん交流館 大谷ホール
10日(金)	13:30~16:30	教化本部 企画室 会議	教区会館 2階 大講堂
23日(木)	10:30~12:00	教区教化委員会	教区会館 2階 大講堂
21日(火)	13:30~16:30	教区財政委員会 旧京都教区専門部会	教区会館 2階 大講堂
24日(金)	13:30~16:30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議 (Zoom)

教務所からのお知らせ

敬弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・長浜第十六組岩隆寺
前任職 大田巖 九十二歳

二〇二四年十一月二十一日
・長浜第二十二組光乗寺
住職 長正道 七十五歳

二〇二四年六月二十八日
・長浜第二十四組隨願寺
前坊守 佐々木澄江 九十歳
二〇二四年十一月十四日
〔寺院教会番号順敬称略〕

年末年始休日のお知らせ

・2024年12月28日(土)から
2025年1月5日(日)まで
年末・年始休日のため、教務所・教務支所を閉所いたします。

長浜教務支所の現金取扱日について

今年度下半期(2025年1月~6月)の長浜教務支所の現金取扱日は左記のとおりですのでお知らせいたします。

1月14日(火)	1月27日(月)
2月10日(月)	2月25日(火)
3月10日(月)	3月24日(月)
4月14日(月)	4月28日(月)
5月12日(月)	5月26日(月)
6月9日(月)	6月23日(月)

宗派経常費年末完納のお願い

今年度につきまして、完納に向けて何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

郵便振替による送金

口座番号 00960-8-18967
加入者名 真宗大谷派京都教務所

※払込用紙(振込料教務所負担)をご希望の方は、お申し出ください。

年末完納締切期日

2025年1月20日(月)

※10万円を超える送金の際は、本人確認書類の提示が必要になる場合があります。

※旧長浜教区において、宗派経常費の振込先としてご案内しておりました「Jアラーク伊吹」及び「JA北びわこ」の口座は使用できませんのでご注意ください。

真宗教団連合滋賀県支部

宗祖親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年 慶讃法要

・2025年2月22日(土)
12時受付開始 午後1時開会
会場/野洲文化ホール

講師/釈徹宗氏

宗派の垣根を超え、お念仏の教えに生きる同朋が身近にいることをよろこぶ場が開かれることを願いとして開かれます。音楽法要、仏教讃歌、記念講演を行います。※参加費無料、事前申し込み不要。



依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

去る一月一日「令和六年能登半島地震」が発生し、能登地方を中心に広域にわたり未曾有の被害をもたらしました。このたびの地震の影響を受けた北陸の地は真宗門徒の多い地域で、とりわけ震源地である能登地方は、近年、度重なる地震により何度も苦しい思いをされてきました。

そのような中で、このたびの巨大地震の発生により、多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、大変深い悲しみと不安の日々を過ごされております。

つきましては、何卒ご理解を賜り、有縁の方々にもお声がけいただき、可能な限り救援金をお取り纏めの上、同封の郵便払込用紙にて送金くださいますようお願い申し上げます。

また、このたびの被害状況から、京都教区としての救援金支援は、複数年度間に亘る必要があると考えております。今後の継続支援としての勧募は情勢を検討しながら改めてお願い致しますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

京都教区救援金総額

二〇二四年十一月二日現在
31,617,187円

京都教区別院 1月の行事予定

1日(水)	0:30 ~ 1:30	長浜 修正会	長浜別院
1日(水)	14:00 ~ 15:00	五村 修正会	五村別院
1日(水)	8:00 ~ 9:00	赤野井 修正会	赤野井別院
1日(水)	14:00 ~ 15:00	大津 修正会	大津別院
1日(水)	14:00 ~ 15:00	山科 修正会	山科別院
1日(水)	7:00 ~ 8:00	岡崎 修正会	岡崎別院
1日(水)	9:00 ~ 10:00	伏見 修正会	伏見別院
4日(土)	9:00 ~ 12:00	赤野井 鏡開き、定例法要(教如上人) 法話 中川眞 師(別院輪番)	赤野井別院
5日(日)	8:30 ~ 11:30	五村 鏡開き	五村別院
6日(月)	14:00 ~ 16:00	伏見 声明作法講座 法話 浅井誠 師(山城第3組 皆演寺)	伏見別院
7日(火)	13:30 ~ 16:30	山科 同朋の会 法話 磯野恵嗣 師(山城第1組 新道寺)	山科別院
10日(金)	14:00 ~ 16:30	伏見 同朋会(御文輪読)	伏見別院
12日(日)	10:00 ~ 12:00	五村 子ども報恩講	五村別院
13日(月)	10:00 ~ 11:30	岡崎 三日講「味読正信偈」 法話 福田大 師(別院輪番)	岡崎別院
15日(水)	14:00 ~ 16:00	山科 定例法話 鏡開き 法話 狐野秀存 師(前大谷専修学院長) ※ぜんざい有り	山科別院
17日(金)	19:00 ~ 21:00	伏見 親鸞教室 法話 藤原正寿 師(大谷大学准教授)	伏見別院
22日(水)	14:00 ~ 16:00	大津 同朋の会 聞法会 法話 治田保男 師(近江第2組 浄安寺)	大津別院
23日(木)	10:00 ~ 11:30	岡崎 三日講「歎異抄を読む」 法話 近藤悠 師(別院列座)	岡崎別院
27日(月)	12:00 ~ 13:00	赤野井 定例法要(宗祖親鸞聖人御命日速夜) 法話 中川眞 師(別院輪番)	赤野井別院
27日(月)	14:00 ~ 16:00	伏見 ご命日のつどい 法話 宮戸弘 師(京都教務所長兼別院輪番)	伏見別院

年末・年始休日のお知らせ

12月28日(土)~1月5日(日) ※年末・年始休日のため教務所・教務支所を閉所いたします。

京都教区
公式SNSあります!



公式SNSで更新情報や、このページにある「今月のことば」についてのひとことメッセージなどを配信しています。下記QRコードから、登録よろしくお願ひします!

LINE公式アカウント

2024年12月1日現在、登録者数102名。ぜひ登録お願ひします!



Facebook
Instagram
もちろんあります!



暦の初めである正月を迎え、折節の行事がまた始まります。年中行事には、変わらぬ循環の中で、人も物事も少しずつ変化することに気づき、世代の交代や命のうつろいを意識していくという意味もあると思います。しかし、変化のめまぐるしい現代にあっては、そのように意識することは難しいのかもしれませんが。

今月は湖西・若狭で受け継がれてきた仏事への思いを寄稿いただきました。生活様式が大きく変わっても、行事を継承することの意義を確かめ合い、共有していきたいものです。(出版部会 早川直子)

編集後記

【表紙の写真】「カムリカイツブリの親子 滋賀県長浜市湖北町にて」(水谷隆彦/伏見別院門徒)

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第416号

真宗大谷派 京都教区 Webサイト <https://www.k-kyoku.net>

【発行人】宮戸弘(真宗大谷派京都教務所長) 【発行所】真宗大谷派京都教務所 【発行日】2025(令和7)年1月1日

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp

